

平成 23 年 度

川崎市下水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成23年度 下水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、本年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

平成23年度は、都市基盤施設としての下水道機能の維持向上を図るため、施設の効率的・効果的な維持管理と更新、また、東日本大震災を踏まえた地震対策など優先順位や重点化を考慮した建設整備を行ってまいりました。

一方、財政面では、下水道経営の健全化を図るため、事業運営の効率化に努めてきたことなどにより、前年度に引き続き当年度純利益を計上することができましたが、過去の建設投資の影響により、未だ企業債未償還残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

(業務の状況)

本年度の有収水量は1億4,679万8,176m³で前年度に比べ210万3,662m³減少しました。

処理面積は1万677haで前年度に比べ14ha増加し、処理人口は142万2,885人で前年度に比べ5,752人増加となり、その結果、人口普及率は99.3%に達しています。

また、下水道使用料は税抜きで224億7,666万8,639円です。

(建設及び改良工事)

本年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、160億3,516万8,177円となっております。

また、本年度は66億9,000万円を翌年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、水洗化の普及、浸水地域の解消を図るため、下水幹枝線工事を施行しました。また、下水道機能の確保及び道路陥没等の二次的被害の発生を防ぐため、老朽化の著しい管きょの再整備工事を施行しました。

貯留管関連については、大師河原貯留管の建設工事をはじめ、前年度に引き続き江川及び渋川雨水貯留管バイパス管の建設工事を施行しました。

ポンプ場については、大島・渡田・六郷・京町・観音川・大師河原・小向・古市場・加瀬・渋川・丸子・江川ポンプ場等で設備の更新工事を施行しました。

水処理センター等については、入江崎・加瀬・等々力・麻生の4水処理センター及び入江崎総合スラッジセンターの更新工事を施行しました。

また、入江崎水処理センターにおいては、前年度に引き続き西系の再構築（高度処理対応）工事を、加瀬水処理センター等においては施設の耐震化工事を施行しました。

2 平成23年度 下水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	38,227,557,000	38,048,157,818	△ 179,399,182	99.5%
資本的収入	51,220,815,000	43,231,955,804	△ 7,988,859,196	84.4%
合計	89,448,372,000	81,280,113,622	△ 8,168,258,378	90.9%

イ 支出（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	36,860,329,000	36,883,936,672	23,607,672	100.1%
資本的支出	67,569,165,000	59,940,129,105	△ 7,629,035,895	88.7%
合計	104,429,494,000	96,824,065,777	△ 7,605,428,223	92.7%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	38,048,157,818	36,883,936,672	1,164,221,146

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益 439,377,348円

イ 資本的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	43,231,955,804	59,940,129,105	△ 16,708,173,301

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額8,989,000円は除く）が資本的支出額に不足する額16,717,162,301円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額724,498,798円、繰越工事資金316,999,000円、当年度分損益勘定留保資金15,675,664,503円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成23年度単年度資金過不足額

（単位 円）

区分	金額	備考
当年度純利益（A）	439,377,348	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 724,498,798 ・繰越工事資金 316,999,000 ・当年度分損益勘定留保資金 15,675,664,503 〔減価償却費 14,719,408,922 固定資産除却損等 956,255,581〕
資本的収支差額（B）	△ 16,708,173,301	
補てん財源等（C）	16,717,162,301	
単年度資金残額（A）+（B）+（C）	448,366,348	

※ 単年度資金残額には翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額8,989,000円を含む。

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

平成22年度末 資金残額※	平成23年度 単年度資金残額	平成23年度末 資金残額
796,145,549	448,366,348	1,244,511,897

※前年度資金残額1,113,144,549円から、繰越工事資金316,999,000円を除いた金額。

(4) 経営成績(税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	25,884,370,048	営業収益	35,351,840,766
営業外費用	10,591,613,558	営業外収益	1,166,775,482
特別損失	0	特別利益	396,744,706
総費用	36,475,983,606	総収益	36,915,360,954
当年度純利益	439,377,348	当年度純損失	-
前年度繰越 利益剰余金	184,507,583	前年度繰越 欠損金	-
当年度末処分 利益剰余金	623,884,931	当年度末処理 欠損金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
下水道事業会計	- (資金不足となっていない)	20%

*資金不足比率は現段階での速報値である。